

復興、防災新聞で考える

全国大会 盛岡で開幕 県内から8人参加



教育現場で新聞を活用する「NIE」(教育に新聞を)の可能性や課題を探る第23回NIE全国大会が26日、盛岡市で始まった。「新聞と歩む復興、未来へ」をスローガンに教育、新聞関係者ら約1600人が参加。災害の風化を防ぎ、教訓を伝える新聞の

役割について考えを深めた。

県内からは、NIE実践指定校の教員ら8人が参加した。開会式のあいさつで、日本新聞協会の白石興二郎会長は、災害時に会員制交流サイト(SNS)でフェイクニュースが拡散されることを挙げ、「真偽織り混ざった情報の大海で、信頼できる情報とは何か問われている。新聞を通じて多様な意見や違つ価値観に触れることで、情報を冷静客観的に読み解く力が養われる」と述べた。

記念講演した明治大文学部の齋藤孝教授は、全国の小中

NIEの意義や課題について理解を深めた全国大会＝26日、岩手県の盛岡市民文化ホール



高校で毎朝の読書活動のうち、月曜日を「新聞切り抜き発表の時間」にすることを提案。「読んでいるだけだと情

報が流れるが、切り抜いて発表することで『マイ記事』になる」とし、西日本豪雨を例に「『あの土砂災害の場所は

どつなっただろう』というように、自分で切り取った記事はその後も気になる。子どもの社会的関心、当事者意識が育つ」と強調した。

また、全国各地で災害が起きている状況に触れ「新聞には確かな記録が蓄積されている。情報を共有すれば社会の『耐災害性』を高めることができる」と語った。

敦賀市栗野中の織田智範教諭(41)は「子どもたちの社会性を養うという意味でNIEの重要性を再認識できた。新聞に触れさせることで、社会に出たとき、考えられることやできることを増やしていきたい」と話していた。最終日の27日は公開授業や分科会で新聞活用の方策を探る。(宇野和宏)